

明和児童クラブだより

第3号

平成30年11月1日 発行
(文責) 鷺頭

子どもたちがハロウィーンの飾りつけをしました！

「明和児童クラブだより」の第2号の後、ずいぶん日が空いてしまいましたが、その間にもそれぞれの子がずいぶん成長してくれているなど実感しているところです。

先日、ハロウィーンにあわせて、子どもたちが、絵を切り抜いて、写真のように飾りつけてくれました。おかげで、保育室もハロウィーンバージョンの部屋になりました。



「明和児童クラブだより」に関するお願い

このおたよりでは、保護者の皆様に、できるだけ学童での子どもたちの様子が伝わるようにしていきたいと考えています。

つきましては、子どもたちの様子を撮影した写真、場合によっては児童の名前をこのおたよりに掲載する許可をいただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

もし、掲載が可能ならば、画質は落として、子どもの顔は極力アップにはせず、名前との同時掲載は避ける等、写真や名前は個人情報として慎重に取り扱っていきます。

もし、「それは困る」という方がいらっしゃったなら、個人的に鷺頭か杉山までお話いただければ配慮させていただきます。また、配慮しなければならない方が多い場合には、掲載は諦めようと考えています。

どうか、ご検討をお願いいたします。

「子育てのあれこれ」のコーナーについて

「子育てに関すること」について、情報を提供しながら保護者の皆様方と、いっしょに考えさせていただききっかけになればと、今回から設けさせていただいたコーナーです。

子育てについては、様々な学説や意見等があります。しかし、TV番組や講演会、書籍などでは、科学的な根拠に基づかない主観的な主張や、理論的な裏付けのない偏った主張なども最近によく見聞きします。私自身は、子育てもほぼ終わりになるのですが、今までの職業がら、未だに子育てについては勉強中です。しかし、勉強をしていく中で、「もう少し早く、この子育ての情報を知っていればよかったのに・・・」と思えることが多いのが現実です。

そこで、私とは違って、子育ての真っ最中である保護者の皆様方に、少しでも役に立つような情報を提供できたらと考え、このコーナーを設けた次第です。このコーナーでは、児童心理学や脳医学、精神医学等々、できる限り科学的な根拠に基づいた子育てに関する理論や考え方、事例等を、毎回という訳にはいきませんが、時々紹介させていただこうと思います。

子育てのあれこれ No.1

(文責=鷲頭)

*今回は、最初ですので、子育てについて、概観してみたいと思います。

1. 子育てのイメージについて

日本には、「三つ子の魂百までも」ということわざがありますが、ことわざの意味としては、「幼児の性質は一生変わらないものだ」となるのですが、「3歳ぐらいまでの子育ての大切さ」については、多くの教育学者や心理学者などにより以前から指摘されてきており、最近では、脳医学の面からもそれが裏付けられてきているようです。

それでは、3歳以上になってしまっただけからでは、また、小学生になってしまっただけからでは手遅れなのかというと、そうでもなさそうです。ただ、3歳まで順調に育った子に比べると、順調でなかった子の育ちを修正していくためには、かなりの労力を要するというこのようです。

また、3歳という年齢だけでなく、ほかにも子育ての勝負どころとなる年齢があるとのこと。個人差はありますが、一般的には、**1歳、3歳、6歳、10歳が子育てのポイントになる年齢**とされています。

2. 子どもの発達課題と、年齢の関係について

子どもの発達課題と、年齢の関係を見ていくと、次のようになります。

(1) 情緒(気持ち)の安定を図ることは

- ・「情緒の安定」は、人格形成のうえで、全ての基盤になる部分です。主としては、**0～1歳**に母親などによる**スキンシップと語りかけ**により獲得していきます。
- ・年齢が高くなるにつれスキンシップから、話を傾聴してあげること、対話をしてあげることが有効になっていきます。

(2) 自主性・自律性の育成では

- ・主としては**1～3歳**に育成されます。大人が口を出しすぎたり、過保護だったりするとなかなか育ちません。**修正しやすい年齢は、10歳ぐらいまでです。**
- ・いたずらや遊びの中での**失敗体験が大切**で、失敗を繰り返す中で、それを克服することにより、育成されていきます。
- ・子どもに**自己選択や自己決定の経験**をたくさんさせることが必要です。
- ・その後の社会性育成の基盤となる、**自己統制力をつけることが必要**で、その基本は、「がまんする力」と「がんばる力」を養っていくことです。

(3) 社会性の育成では

- ・主としては**2～6歳**に育成されますが、**10歳ぐらいまでは育成は容易**であり、**学童や小学校はそのために最適な場**となります。また、青年期になってからも、さら強化されていきます。
- ・特に、**対人関係は、遊びの中で、けんかを通して学んでいく**のが主です。

*上の(1)～(3)が十分に育まれれば、子どもは「自己実現」に向けて、勉強でも運動でもがんばることができるようになるそうです。

(参考文献) 「『心の基地』はおかあさん」「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」「親がすべきこと・してはいけないこと」(平井信義)、「頭のいい子より賢い子を育てるしつけ方」(星一郎)、「学校で出来ること出来ないこと」(外山滋比古)、「子どもの発達とつまずき」(高野清純)、「文化と感情の心理生態学」(荘厳舜哉) 他

明和児童クラブは、子育てにおいて皆様とともに悩むパートナーでありたいと考えています！子育ては、思うようにいかないのが普通であると思っているからです。

子育てやお子様のことで、困っていることがあったなら、いつでも、鷲頭が相談にのりますので、気軽にお声がけください！